

# 盲導犬と旅行

延べ八十三頭。私の企画したユニバーサルツアーで、この十年間に視覚障害

## このまさこの 地球を 旅したい



者ら同行した盲導犬の数である。

ツアーはこの夏までで四十四本。うち海外二十八、国内六本を実施した。盲導犬が入れた国はフランス、ドイツ、カナダ、スイス、

イタリア、スペイン、オーストラリア、ベルギー、オランダ、デンマーク、韓国、ポーランド、ハンガリー、オーストリアなど。国内では、阿波おどりの「連」に史上初めて参加して踊ったり、京都で保津川

## 配慮あれば和旅館へも

下り、真冬の二月に北海道へ雪見、流水を感じる砕氷船に乗ったり、春の釧路湿原を歩いたり、釧路川をラフトボートで下ったりした。

ツアーはこの夏までで四十四本。うち海外二十八、国内六本を実施した。盲導犬が入れた国はフランス、ドイツ、カナダ、スイス、

ている犬は心も安定し、めったに粗相はしない。これがおおかたである。が、日常に水やえさを気分次第で与える人もいるらしく、排せつの時間もきちっと決まないので、盲導犬が旅先の路上でうんちをしたり。イタリアのカプリ島では地元の人と与えた泉の水でひどい下痢をし、オムツをさせ

て飛行機に乗り、スイスの動物病院のお世話になった犬もいた。大局を見れば、視覚障害がある人で食事、排せつ、入浴を自力で行える人は、盲導犬さえ同行できれば、国内はもちろんのこと、海外へ単独で旅することができ、介助者の同行は必要はないという画期的な方向に



盲導犬は航空運賃無料。通路側に足を向けユーザーの足元に上手にうづくまる

向かっている。欧米を旅していると、レストランに入るのも、ホテルに入るのもスムーズで、盲導犬使用者は全館移動の自由を確保されることも多く、盲導犬を連れていくことすら忘れてしまふシーンが多い。

一方、わが国では、体の不自由な人が盲導犬などの補助犬を同伴してレストランやホテルなどが利用できないよう義務付けた身体障害者補助犬法が完全施行され、丸一年がたった。が、宿泊や入店拒否しても罰則規定がないため、法律を知らない旅館やレストランから拒否されたという声が、全日本盲導犬使用者の会のメーリングリストに多数寄せられている。

もちろん、靴を脱がない国と靴を脱ぐ国では事情は異なる。ツアーで和旅館に泊まるときは、ぞつぎんと



バケツを持参し、玄関で盲導犬の足を洗い、廊下上げる。毛が飛び散らないように服を着せる。和宴会場では、持参した敷物に盲導犬を座らせ、ユーザーの後ろに伏せさせる。大浴場へは、できるだけ脱衣場まで盲導犬を連れて行き、隅につなぐ。盲導犬が飼い主の言いつけを守り、静かに待つことができれば、盲導犬同行を拒否されるシーンは少なくなるだろう。

和旅館の金びょうぶの前の宴会場でおせんを並べ、海の幸、山の幸、酒などに舌鼓を打ち、露天風呂や大浴場の温泉を楽しみたい！

これはすべての旅人の願望でもある。(トラベルデザイナー)

せいかつ 21

